

インターネットのコミュニティサイト作りから運営までを一手に引き受ける専門企業、ガイアックス(東京都渋谷区、上田祐司社長)は、単体でも収益を上げるコミュニティサイトの開発に本格的に乗り出した。コミュニティサイトはインターネット利用者同士がネット上で交流したり情報交換するサイトで、企業のホームページに付設されているケースが多い。同社が手がけた大手企業のサイトの中にはすでに採算の取れるコミュニティサイトも出ており、有望市場とらんで本腰を入れる。

ネット専門ガイアックス

コミュニティサイトは、自社のホームページへのアクセス数を増やしたり顧客を囲い込むツールとして設置する企業が増えている。

ガイアックスでは、ホームページ作成ツール、チャットシステム、掲示板システムなど、コミュニ



上田祐司社長

ニティーサイト作りのための部品を提供するほか、サイトの運営やメンテナンスなどを手がけている。すでに、NTTコミュニケーションズ、関西銀行、シャープ、松下電器産業、パワードコムなど三百社以上のサイト構築や運営を引き受けている。

同社は創業五年目、上田社長は二十九歳の若さ

「黄金サイト」育てたい

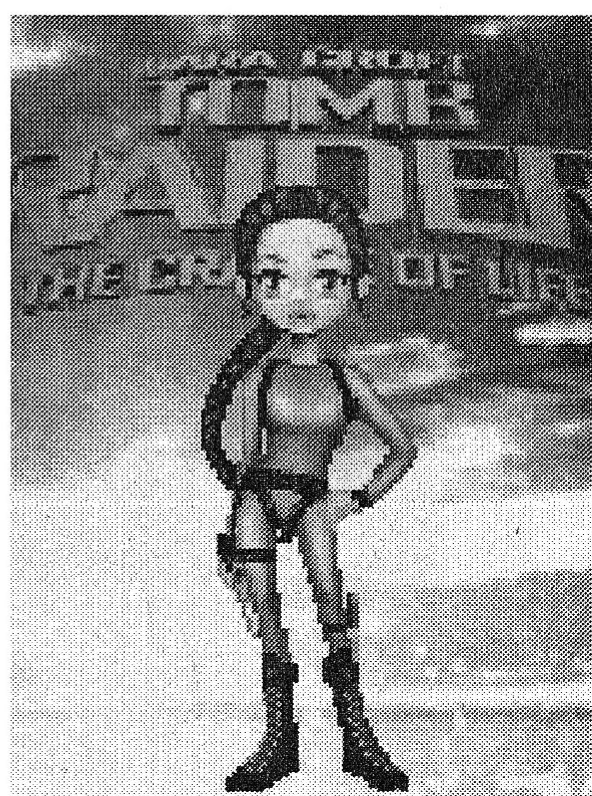
独立「コミュニティ」開発に本腰

だ。創業当時は収益が上がる状況ではなかったが、ブロードバンド(高速大容量)通信の普及で、ネットで物を買う人が増えるなど、ネットビジネスが成功する土壌が広がった。上田社長は「ネット経由で、百円、二百円という小銭を集められるようになった。着メロや着歌(ちやくが)がいい見本」と指摘する。

同社が手がけるコミュニティサイトの「おまけ」から脱出して、単独で収益を上げるサイトも出始めた。代表格が電力系通信事業者パワードコム(カフエスタ)だ。

ネット上のバーチャル(仮想)社会で、アバターという自分の分身のアニメキャラクターを通じて、チャット、ホームページやサークルなどのコミュニケーションサービ

の分身キャラ、アバター人気。カフエスタで150-300円で発売されている映画「トウムレイダー2」のヒロインのアバター



スを利用するシステムが人気を呼び、開設十四カ月で会員数七十五万人を突破した。

収益源は、広告に加えアバターが着る洋服やアクセサリなど。オンラインズやTシャツなど一般的なもののほか、ブランド品も扱い、一着二百円が購入、着せ替え人形のようにアバターの身に着けさせる。購入代金のうち一定率がガイアックスにも入る仕組みになっている。採算ラインの会員数四十万人は初年度でクリアした。

上田社長は「韓国ではネットユーザーのほとんどがアバターを持っており、百億-二百億円という年収を上げているコミュニティサイトもある。課金チャンスは実に多彩で、日本のビジネスにも大いに参考になる」と話し、次の目標として、百億円単位の収益を上げるコミュニティサイトの育成を掲げている。